

憲法をいかす福島県民集会

プログラム

開会あいさつ 角田政志 呼びかけ人代表

主催者あいさつ 高橋哲哉 呼びかけ人代表

講演

テーマ：日本国憲法の平和主義

なぜ9条なのか

講師：学習院大学 専門職大学院 法務研究科

教授 青井 未帆 さん

質疑・応答

閉会あいさつ 二瓶由美子 呼びかけ人代表

と き：2025年11月3日（月・祝） 午後1時15分～午後3時30分

ところ：福島市「ラコパふくしま」5階

憲法をいかす福島県民の会

〒960-8105 福島県仲間町4番8号

（福島県平和フォーラム内）

TEL:024-522-6101

FAX:024-522-5580



2025年11月3日

日本国憲法の平和主義

なぜ9条なのか

学習院大学 青井 未帆

1

○ なぜ9条があるのか？

- ・ 強まる「安全保障環境の悪化」
- ・ 「冷笑的な文化」に抗する
→ 抵抗の手がかりとしての憲法
- ・ 見識としての「統帥権の独立」

2

- 1 状況の概観
- 2 そもそも憲法9条とは？
- 3 安全保障政策の「大転換」の意味
- 4 「平和主義」を貫くために

1 状況の概観

- ・ 高市政権の誕生、トランプ大統領
- ・ 国境というボーダーが再び濃くなっている
← いったんはボーダーレスと言われたが...
- ・ でも、昔のようには戻らない
→ 多層的な空間へ：国家は残るが地域法色強い
- ・ 何が変わらないか → 国家に残される**実力統制**
+ **生身の人間**

3

4

2 そもそも憲法9条とは？

→ 「日本型平和主義」の枠組み

日本国憲法第2章 = 第9条

← 統帥権等の**削除**の結果
(大日本帝国憲法)

5

→ 安全保障問題を**根っこ部分**で規定

← 最大の権力行使になりうる

→ 直接に、身体を持つ私たちの生活や自由に影響を与える



6

日米安保条約締結＋自衛隊創設

- ・極めて難しい問題を孕んでいたのに、国家的にも「見せる場面」を分けて扱われることに

「舞台上」：厳しい与野党対決、裁判所

「舞台裏」：法制官僚の解釈、背広組の仲介
実務者間の協議

7

私たち = 主に観客

：舞台上の人たちも、舞台裏の人たちも
観客の視線を常に意識してきた

→ 観客の「感度と見識」の変化

→ 舞台にも影響

← 演題・演目に選ばれない

8

明治憲法と統帥権

- ▶ 明治憲法以前に「事実」として存在した「統帥権の独立」
- ▶ (「事実上の慣習と実際の必要とに基くもの」美濃部達吉)
- ▶ 「魔法の杖」(司馬遼太郎)
- ▶ 「天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス」(明治憲法 11 条)
- ▶ 作戦・用兵に関する統帥事務については国务大臣ではなく、陸軍においては参謀総長、海軍においては軍令部総長(統帥部)が補翼する：国务大臣の輔弼の排除

9

「個人の尊厳」(憲法24条)に基づく「個人の尊重」(憲法13条)

= 人権の根拠 ← 平和が前提 ← 何が平和？

★ 個人の人権が保障されるために国家が存在する

→ 権力分立

10

憲法と一緒に考える

憲法付属法

- : 国会法、公職選挙法、内閣法、
国家行政組織法、国家公務員法、
地方自治法、国民投票法など
- ← 憲法と同時並行で制定作業された

11

→ 憲法改正でなくとも「国のかたち」は変わる

← 安全保障は一つの典型例

: 改正なく、日米安保、自衛隊
日米安保については「ガイドライン」

← そういうことがなぜ可能なのか？
= 観客の感度と見識が問われる問題

12

3 安全保障政策の「大転換」

- ・ 2022年12月16日
安保関連3文書を閣議決定で改定
- ・ 大軍拡 → 「5年間で43兆円の防衛費増額」
「防衛財源確保法」「防衛産業支援法」
- ・ 戦略の執行段階へ → 「わが街」レベルへ

13

安保3文書

- **国家安全保障戦略**（国家安保戦略）
3文書のうち最上位。外交・防衛政策を中心とした国家安全保障の基本方針。

← 「国防の基本方針」1957年（岸）、国家安保戦略（2013年）

- **国家防衛戦略**（「防衛計画の大綱」（防衛大綱））
1976年（三木）～
国家安保戦略を踏まえて、防衛力の在り方や保持すべき防衛力の水準を規定。

- **防衛力整備計画**（「中期防衛力整備計画」（中期防））

1985年（中曽根）～
防衛大綱が定める防衛力の目標水準の達成のために、今後5年間の防衛経費の総額や主要装備の整備数量を示すもの。

← 同時改定ははじめて

14

「今回の決断は、日本の安全保障政策の大転換ですが、**憲法、国際法の範囲内で行うもの**であり、非核三原則や専守防衛の堅持、平和国家としての我が国としての歩みを、**いささかも変えるものではないということを改めて明確に申し上げたい**と思います。」（施政方針演説、2023年1月23日）

15

⇨ この間の**憲法論からの切り離し**

- ・ 2013年 内閣法制局長官人事、特定秘密保護法、NSC法
- ・ 2014年 集団的自衛権行使容の認閣議決定
- ・ 2015年 安保法制
- 2022年 安保3文書閣議決定

「ひとまとまり」：2022年で最終段階
← 総合的な戦略指針であること

16

* もはや安保政策論が憲法論とならない

← 政府の憲法解釈論は妥当性を確保しない

問題点 → **内閣の総合的判断**に「おまかせ」

国会・裁判所・地方自治における
抑制均衡が不十分

← 法制上の理由

17

正式な改憲論議とは別に
事実の積み上げが進んでいる

- ・ 米軍との一体化、米豪印軍との協力体制
- ・ 米豪軍武器等防護
- ・ 防衛費増大

また、**武力攻撃事態手前部分が**「安全保障」

18

→ 憲法改正が本格化しなくとも、

国のありようは着実にさらに変化する

安全保障が多くの分野で語られるように

・ 経済、学問、宇宙、AI、産業 等々

19

- ・ **国民主権**のもとでの「国のありようの変化」
← これまでの改正よりも不真面目
に行われてよいのだろうか？

- ・ 過去、真面目に憲法が語られてきたことを
想起する必要がある

20

4 平和主義を貫くために

- ・ 権力分割 → 仕事の振り分け

必要なこと

- ・ 任にあたる者に役割を再確認させる
- ・ 冷笑的になることに何のメリットもない

ことを私たち相互に確認

21

改めて、武力行使原則違法化の意味や
「力の統制」の知恵を再考する

主権（＝統治権） ← 国際法による制約
主権をコントロールする知恵 =
← 近代憲法による制約
・・・ **ちからの統制**

22

→ 「統帥権の独立」という失敗を忘れていいの
か？

= **ちからの統制の失敗**

← 亡くなるのは生身の人間
「人との関係」が奪われることの理不尽さ

：この立脚点から離れてはいけないはず

23